

❀ 相浦愛宕市 ❀

400年以上の歴史を誇る「相浦愛宕市」。
春の訪れを告げる植木や苗木などを販売する露店が沿道に並び、この地域独特の風情を感じることができます。福袋や鉢植えが当たる恒例の「福しゃもじ」も毎回大人気です。皆様のご来場をお待ちしています。

と き 2月22日(金)～24日(日)

ところ 相浦橋～相浦港の歩行者天国

※交通規制へのご協力をお願いします。

お尋ね 相浦商工振興会内・愛宕祭協賛会 ☎47-2754



交通規制

①車両通行止め

10時～17時 相浦橋～相浦郵便局そば交差点

②市営バスの運行経路変更

- 日野木宮経由・相浦棧橋、ニュータウン真申行き
⇒日野大湯経由に変更
- 大野木宮経由・相浦棧橋、ニュータウン真申行き
⇒大野大湯経由に変更

※都合により終点バス停を変更する場合がありますので、乗車バス停で経由地などをご確認ください。

お尋ね 交通局業務課 ☎25-5111

C O N T E N T S

03	特集	絵葉書に見る近代化遺産
10	トピックス	SASEBO時旅「2013春・夏号公式ガイドブック」ができました
12	イベント情報	第12回九十九島かき食うカキ祭り・冬の陣 など
16	市政通信	市県民税・国民健康保険税の申告は3月15日まで! など
28	トピックス	インフルエンザ感染予防に努めましょう
14	施設だより	18 お便り、広報クイズ「かますの一夜干し」プレゼント
19	レシピ	「ひじき&豆腐ギョロッケ」
20	暮らしの情報	24 健康と福祉
28	平成25年春季全国火災予防運動	29 シリーズ 佐世保の水「水源施設が抱える課題」 など
30	市長日記、徳育通信	「できることから、まずは始めましょう!」
31	歴史散歩	「火の見櫓と半鐘」 など 32 第6回「市長とキラっ人トーク」参加者募集!

特集

絵葉書に見る 近代化遺産

明治時代、水田や湿地が広がる佐世保村は、海軍の鎮守府設置を契機に、当時の最新の技術やデザインを反映した建物が次々と建てられ、近代的な都市へと生まれ変わりました。

それらの建物は「芸術作品」と称しても違和感のないものばかりで、市の名所としても親しまれ、幾度となく「絵葉書」の題材などにも取り上げられました。

今回の特集では、本市が所蔵する主に戦前の絵葉書にスポットを当て、その題材となった近代化遺産とも言える建物などを紹介します。

社会教育課では、次の日程で「第7回佐世保市近代化遺産写真展～絵葉書に見る近代化遺産～」を開催します。この特集以外の絵葉書も多数展示しますので、どうぞご覧ください。

と き 2月14日(木)～3月4日(月)

ところ 島瀬美術センター



絵葉書集「佐世保名勝」 「昭和9年6月19日佐世保鎮守府、昭和9年6月14日佐世保要塞司令部許可済」という文字が印字されており、そのころの市内の名勝を絵葉書にしたものと思われます。佐世保市役所庁舎や八幡神社、鵜渡越親鸞聖人銅像、佐世保公園などが紹介されています。

鎮守府と海兵団

金比良山の切り崩し

明治19(1886)年5月、佐世保に軍港を設置することが勅令(天皇の命令)によって正式に決まりました。人口約4千人の寒村に日本海軍の拠点を建設するというニュー・スはすぐに広まり、周辺の村だけでなく、県外からも多くの労働者が佐世保に集まってきました。

軍港建設には、まず用地の確保が必要であったため、海軍省は現在の海上自衛隊総監部周辺にあった金比良山や水田、湿地などを買収し、翌年1月に本格的な工事が始まりました。



写真1 金比良山の切り崩し

完成を急ぐ海軍省や県は、金比良山の切り崩し(写真1)、水田のかさ上げなどの工事を突貫作業で行いました。山の切り崩しには火薬(地雷火)が使われましたが、まだ機械もなく、人力だけで行ったため、事故が頻発し80人を超える労働者が亡くなりました。

日本の最も西を守る鎮守府

佐世保鎮守府は、日本の最も西を守る鎮守府として、朝鮮半島から南西諸島、台湾などを管轄しました。

その中核的な役割を担った鎮守府庁舎(絵葉書1)は、明治22年5月に完成しました。れんが造2階建てで、建物面積は441・3㎡。正面、内部とも左右対称のデザインで、寄せ棟造りの主屋の左右に切妻造りの張り出しが設けられています。窓の上に設けられた漆喰・モルタルによる装飾帯と屋根に角のように突き出した暖炉の煙突が、建物のアクセントになっています。

鎮守府庁舎は、佐世保鎮守府のシンボルとして威容を誇っていましたが、昭和20(1945)年6月の佐世保空襲で焼け落ちてしまいました。現在は玄関部分の一部が海上自衛隊佐世保地方総監部敷地内に移設保存されています。



絵葉書1 佐世保鎮守府庁舎

(明治22年建築、昭和20年焼失)

襲で焼け落ちてしまいました。現在は玄関部分の一部が海上自衛隊佐世保地方総監部敷地内に移設保存されています。

絵葉書2は、鎮守府庁舎の正門です。庁舎の表門に当たるため、しばしば化



絵葉書2 佐世保鎮守府の正門(明治22年建築)



写真2 海上自衛隊佐世保地方総監部の正門



部本團兵海保世佐

絵葉書3 佐世保海兵団庁舎(明治21年建築、戦前に解体)

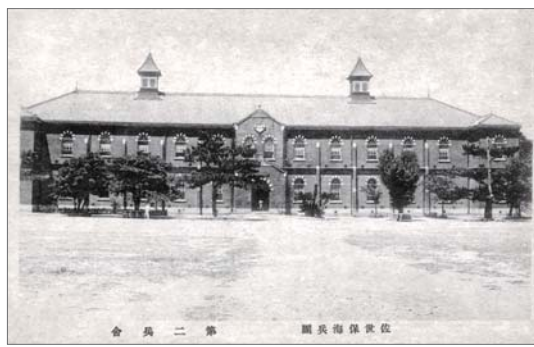
粧直しが行われ、門柱の上にガス灯と思われる照明器具が付けられていた時期もありました。現在は海上自衛隊佐世保地方総監部の正門(写真2)となっており、昔と同じ面影を残しています。

海軍の気風と威信を表現

明治21(1888)年6月、現在の海上自衛隊佐世保病院やニミッツパーク一帯に、佐世保海兵団の建物が建てられました。海兵団とは鎮守府に設置された組織で、主に下士官や水兵の徴募、教育訓練、軍港警備などを行いました。

佐世保海兵団の庁舎(絵葉書3)は、鎮守府庁舎に比べると、装飾的な要素に富み、堂々とした建物でした。正面には城塞風の装飾が施され、窓等のアーチ部分には、れんがと石材を交互に使うことでアクセントが付けられました。

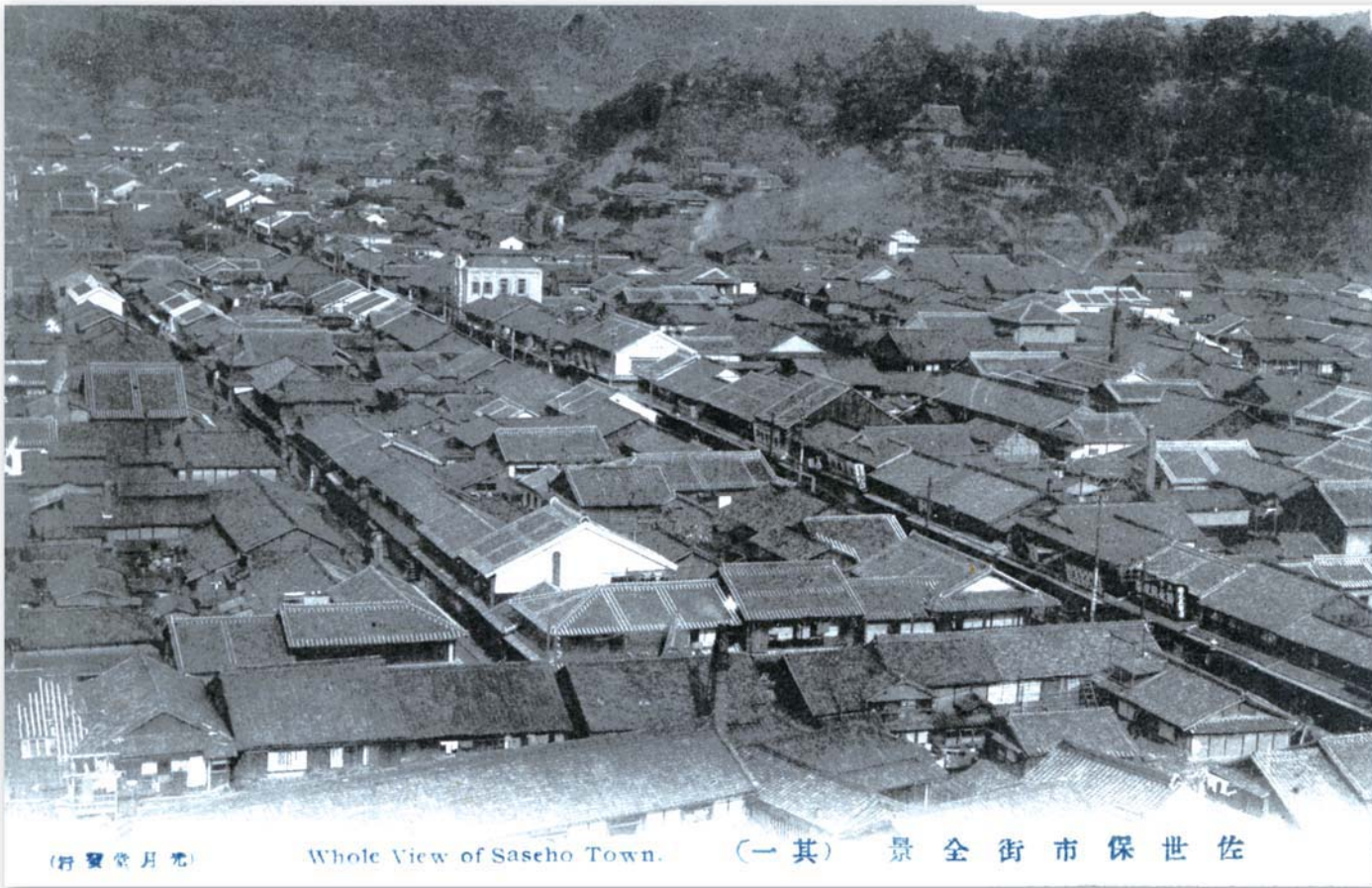
庁舎の両脇に建てられた第一兵舎、第二兵舎(絵葉書4)は、300坪(約991㎡)を超える大規模な建物でした。窓や玄関上のアーチは庁舎と同じデザインで、3棟の建物は統一感を持たせてありました。これは、海軍に入隊したばかりの新兵に、海軍の気風と威



絵葉書4 佐世保海兵団第二兵舎(明治22年建築、平成3年解体)

信を印象付ける狙いがあったのではないかと考えられています。

これらの建物のうち、海兵団庁舎と第一兵舎は戦前に解体撤去されました。第二兵舎は戦後も残存し、自衛隊員の官舎として使用されていましたが、平成3(1991)年に官舎の更新と運動場の拡張に伴い、解体されました。明治20年代のれんが造の建物は残存例が少なく、貴重な建物と考えられていただけに残念な結果となりました。



Whole View of Sascho Town. (一其) 景全街市保世佐

(行賢堂月亮)



Whole View of Sascho Town. (二其) 景全街市保世佐

(行賢堂月亮)

市街地と佐世保橋

アーケード通りから始まった 計画的なまちづくり

鎮守府設置を契機に、佐世保には多くの人が移り住むようになりまし。一方、水田や湿地が広がる佐世保に、近代的な都市を建設することを計画していた海軍省と県は、増え続ける人々が無秩序に家を建てることを規制し、新しいまちづくりに取り組みました。

まちづくりの計画は、最初に市街地の核となる通りを造成し、そこから基盤の目のように街区を設けるといったもの。この計画を基本として、佐世保は数年のうち急激な変貌を遂げ、近代的な都市に生まれ変わりました。

佐世保の右下から左上に向かって軒がそらっている部分が、まちづくりで最初に造成された通りで、現在の「三ヶ町、四ヶ町のアーケード通り」です。

変貌を遂げた市街地

上の絵葉書5、6は、明治末期から昭和初期ごろの市街地を撮影したものです。整然と並ぶ建物が印象的です。ほとんどが2階建ての和風建築で、高さや軒出

に統一感があり、素晴らしい都市景観を形成しています。

佐世保の左上に見えるのが佐世保川です。市街地から見た対岸は佐世保鎮守府の敷地となっており、市街地とは対照的に洋風の建築物が数多く建っていました。

この近代的な市街地も1200人以上の犠牲者を出した佐世保空襲(昭和20年6月)により、その大半が焼失してしまいました。

日本最長の鉄筋コンクリート橋

現在の「佐世保橋」は、かつて「海軍橋」と呼ばれ、鎮守府と市街地を隔てる場所でもありました。橋を渡った先に鎮守府の門があり、そこから先が佐世保鎮守府の敷地で、一般市民は立ち入りが制限されていました。

もともと木造だった佐世保橋が、鉄筋コンクリート橋に架け替えられたのは、明治39(1906)年のこと。橋長は49.4mあり、鉄筋コンクリート橋としては当時、日本最長でした(絵葉書7)。

佐世保橋は日本の鉄筋コンクリート

技術の黎明期において、佐世保が先駆的な役割を果たしたことを物語るものでしたが、昭和59(1984)年の架け替えに伴い、解体されてしまいました。その際、欄干の一部が浜田町公園に移設されました(写真3)。

市内最大の集会所 CPビル

佐世保橋の背後に見える大きな建物は「下士官兵集会所(海軍集会所)」で、昭和10(1935)年3月に建てられました。この場所に最初に集会所が設置されたのは明治35(1902)年のこと。主に下士官や水兵たちの宿泊、食事、教養娯楽などに利用されていました。

鉄筋コンクリート造3階建ての大規模な建物であったこの集会所は、完成以来、市内最大の集会所として毎日数百人の下士官や水兵が利用したと言われています。

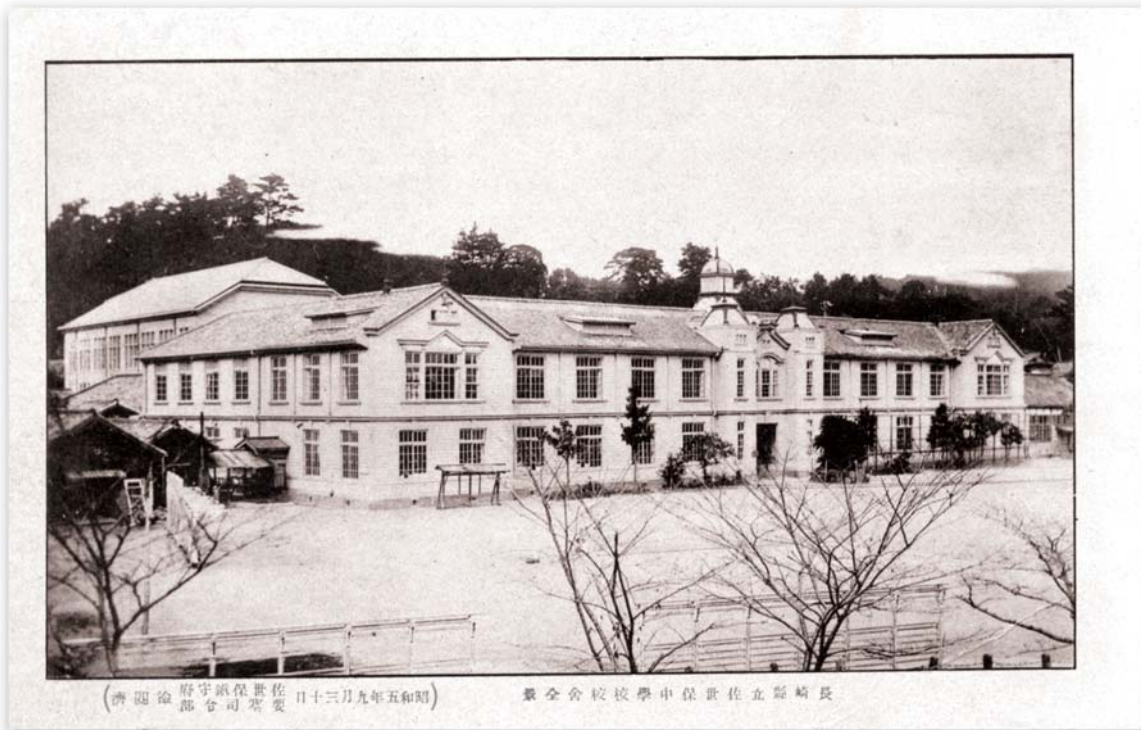
戦後は米軍に接收され、CPビルと呼ばれていました。昭和52(1977)年に米軍から返還され、一時は改修して図書館にする計画も検討されましたが、実現せずに解体され、現在は市立総合病院の駐車場となっています。



佐世保橋(明治39年建築、昭和59年解体)
下士官兵集会所(昭和10年建築、昭和62年解体)



写真3
浜田町公園に移設された佐世保橋の一部



長崎県立佐世保中学校校舎(明治41年建築、昭和20年焼失)

県立佐世保中学校

駒杵勤治「外観の美」を表現

佐世保は鎮守府設置を契機に人が増え続けましたが、教育機関としては尋常小学校しかなかったため、子どもを持つ親などから中学校(5年制の旧制県立中学校)の設立を求める声が高まりました。そこで本市は市街地に近い中通免現在の清水小学校に学校敷地を確保し、校舎を建設した上で長崎県に寄付するという方法をとって、長崎県に県立中学校の設立を促しました。これを受け、長



絵葉書9 県立佐世保中学校講堂(昭和初期建築、平成16年解体)

崎県は明治41(1908)年8月に県立佐世保中学校の設立を決定。翌年4月に110人の生徒を迎えて開校しました。この時建設された校舎(絵葉書8)の設計を担当したのが、当時、佐世保鎮守府建築科の技師だった「駒杵勤治」です。駒杵は、手掛けた建物が国の重要文化財に指定されるなど、優れた建築家としても知られていました。

佐世保中学校の設計は、駒杵が提唱する設計理論に基づいて行われました。実用的であることはもちろんですが、建物の中央に重きを置くこと、完全に左右対称であること、様式を統一することなど、特に「外観の美」にこだわりがあり、佐世保中学校は、それが見事に表現された秀逸な建築物となりました。

絵葉書8の校舎の後ろに見えるのが、昭和初期に建設された鉄筋コンクリート造2階建ての建物で、2階部分が講堂となっていました(絵葉書9)。昭和20(1945)年の佐世保空襲の際、校舎は焼失しましたが、講堂は焼失を免れました。戦後は八幡小学校の体育館として使用されていましたが、清水小学校の開校に伴い、解体されました。

絵葉書10 佐世保市役所庁舎(昭和9年建築、昭和48年解体)



佐世保市役所

九州随一の市庁舎

明治35(1902)年4月、佐世保は村から市となりました。初代市役所庁舎は、谷郷町にあった村役場の建物をそのまま使用しましたが、翌年、八幡町にあった料亭「玉川」を改修し、そこに移りました。

その後、43年に同じ場所に木造2階建ての新しい庁舎を建設。青ペンキ塗りの洋風建築で、前述の駒杵勤治が設計を担当しました。この庁舎もやがて老朽化し、手狭になったことから、市制施行30周年を機に建て替えとなりました。

昭和9(1934)年、鉄筋コンクリート造4階建ての立派な市役所庁舎が完成しました(絵葉書10)。壁面は昭和初期に流行したスクラッチタイル(引っかいたような模様のタイル)が貼られ、玄関や基礎部分には砂岩が用いられました。設計者は、現在の国会議事堂なども手掛けた大蔵省の「大熊喜邦」で、完成時は「九州随一の市庁舎」と評されました。昭和20年の佐世保空襲で外壁を残し



写真4 移設された旧市役所庁舎の玄関部分(中央公園)

て全焼してしまいましたが、戦後に復旧され、再び市庁舎として使用されました。しかし空襲によるダメージは大きく、老朽化が急激に進んだこともあり、昭和47年の市制施行70周年を機に現在の市庁舎に建て替えとなりました。この時、旧市庁舎の玄関部分が、名切町の中央公園に移設されました。

社会教育課 ☎24・11111